

## 理学部：化学科

### 【卒業要件：124単位】

1. 全学教育科目は、卒業要件として（イ）～（ホ）に従い、42単位以上を修得する。

（イ）教養教育科目は、以下の条件に従い、10単位以上を修得する。

コア教養科目の「人間と文化」、「文芸と人間」、「歴史の認識」の中から1科目2単位以上、

コア教養科目の「異文化の理解」、「現代の政治と法」、「現代の社会と経済」の中から1科目2単位以上、

コア教養科目の「地球と生命」、「数理と情報」、「物質の世界」の中から1科目2単位以上を履修する。

なお、コア教養科目の「医療と福祉」、「芸術とテクノロジー」については、1科目2単位に限り、コア教養科目のうちの不足する区分の単位とすることができる。

さらに、上記で修得した科目を除くコア教養科目および六本松地区で開講する個別教養科目の中から4単位以上を修得する。

（ロ）言語文化科目Ⅰでは、第1外国語6単位以上、第2外国語4単位以上を修得する。

（ハ）健康・スポーツ科学科目Ⅰでは、「健康・スポーツ科学講義」、「健康・スポーツ科学実習」を修得する。

（ニ）基礎科学科目Ⅰでは、必修科目12単位と選択必修科目の中から6単位の計18単位を修得する。

なお、選択必修科目の中で次の科目を履修することが望ましい。

「電磁気学基礎」、「基礎化学結合論」、「基礎化学熱力学」

（ホ）情報処理科目Ⅰでは、「情報処理基礎演習」を修得する。

2. 専攻教育科目では、卒業要件として低年次専攻教育科目を含めて72単位以上を修得する。

3. 理学部の卒業要件として、上記1および2の卒業要件の外に、総合選択履修方式により10単位以上を修得する。

なお、上記10単位のうち4単位以上は3年次以降で修得することが望ましい。

また、基礎科学科目Ⅰの中で次の科目から、2科目以上を履修することが望ましい。

「微分積分統論」、「熱と波動論基礎」、「細胞生物学」

4. 進級について

2年次後期以降に開講される専攻教育科目を履修するためには、2年次前期終了までに全学教育科目から40単位以上を修得しておかなければならない。

ただし、基礎科学科目Ⅰの中から「物理学基礎実験」および「基礎化学実験」を含む14単位以上を修得し、情報処理科目Ⅰの「情報処理基礎演習」は必ず修得しておかなければならない。

おって、進級判定の時期は2年次の9月とする。

## 履修細目一覧（ 理学部：化学科 ）

区 分	授 業 科 目	最低修得単位数			受 講 キャンパス	
		科目区分毎の 単 位 数	総合選択 履修方式	合 計		
全 育 科 目	教 養 科 目 コ ア 教 養 科 目	人間と文化(2) 文芸と人間(2) 歴史の認識(2) 異文化の理解(2)	2単位	10単位	六本松  箱崎 病院 大元 崎 院 橋 岡	
		現代の政治と法(2) 現代の社会と経済(2) 地球と生命(2) 数理と情報(2) 物質の世界(2)	2単位			
		医療と福祉(2) 芸術とテクノロジー(2) ※1	2単位			
		上記で修得しなかったコア教養科目	4単位			
	個別教養科目	六本松キャンパスで開講する科目	4単位			
		箱崎, 病院, 大橋, 元岡キャンパスで開講する科目				
	言語文化科目Ⅰ	第1外国語 第2外国語	6単位 4単位			
	健康・スポーツ科学科目Ⅰ	健康・スポーツ科学講義(2) 健康・スポーツ科学実習(1)	2単位 1単位			
	基 礎 科 学 科 目	基 礎 科 学 科 目 Ⅰ	【必修科目】 線形代数A(1.5), 線形代数B(1.5), 微分積分A(1.5), 微分積分B(1.5), 力学基礎(2), 物理学基礎実験(2), 基礎化学実験(2)	12単位		10単位 ※2
			【選択必修科目】 上記の必修科目以外の基礎科学科目Ⅰから履修 すること。 (推奨科目) 電磁気学基礎(2), 基礎化学結合論(2), 基礎化学熱力学(2)	6単位		
次の科目の中から, 2科目4単位以上を履修する ことが望ましい。 微分積分統論(2), 熱と波動論基礎(2), 細胞生物学(2)						
情報処理科目Ⅰ	情報処理基礎演習(1)	1単位				
言語文化科目Ⅱ						
健康・スポーツ科学科目Ⅱ						
基礎科学科目Ⅱ						
情報処理科目Ⅱ						
外国語コミュニケーション科目						
専 攻 教 育 科 目	他専攻の専攻教育科目					
低年次 (第1学期) (第2学期) (第3学期)	化学序説 無機化学Ⅰ, 有機化学Ⅰ 無機化学Ⅱ, 物理化学Ⅰ, 有機化学Ⅱ, 量子化学序論	72単位		箱 崎		
第4学期以降	理学部専攻教育科目配当表を参照すること。					

※1 「医療と福祉」, 「芸術とテクノロジー」については, 1科目2単位に限り, コア教養科目のうちの不足する区分の単位とすることができる。

※2 総合選択履修方式の10単位には, 科目区分毎の最低修得単位数分として履修した科目を除いて履修すること。  
総合選択履修方式において, 3年次以降に4単位以上履修することが望ましい。